

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○10月2日～

先週もじわじわとドル／円は上昇しました。

日銀の介入を警戒して、スピードを落して上値を試す展開が続きそうです。

節目の 150 円を超えてからの動きは注視しておく必要があります。

米国の長期金利(10年物米国債の利回り)の上昇がドル高を後押ししています。

この長期金利がどこまで上昇を続けるかも重要なので、米国債に関するニュースも気をつけておきたいです。

各国とも利上げは最終段階に入ってきており、今週発表予定のオーストラリアとニュージーランドの政策金利も据え置き予想が多くなっています。

ただし、金利据え置き期間がどうなるかは不透明な上、インフレリスクが再び高まってきているとのデータも出てきています。

インフレ要因の1つとして原油価格の上昇があります。今年の夏以降、原油価格は上昇してきているので、原油価格とインフレ指標は引き続き見ていきたいです。

株価はまだ軟調な動きが続いているので、10 月に入って米国株、日本株がさらに下がる動きになるとリスク回避の動きが強まる可能性があります。

為替相場は今のところ落ち着いているので、特に不安定な要素は少なく、今週も狭い範囲での動きになるかもしれません。

今週は、中国が国慶節で連休になっています。

米国では今週は重要指標の発表が多く、指標発表後のドルの動きに変化が出るかがポイントです。

心配されていた米国の政府機関の一部閉鎖は回避されたようですが政治的な混乱は来年の大統領選に向けて激しくなる可能性があるので、政治関連のニュースも見ておく必要があります。

ユーロはドルに対して 7 月中旬以降は弱い動きが続いているので、ユーロのトレンドも把握しておきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

ドル／円は 149 円台まで上昇してきました。

ドル／円の上昇トレンドは今年の 1 月を底に続いており、トレンドが崩れるまでは押し目買いを狙っていききたいです。

1 円とか 2 円程度下がってもすぐに戻す動きが続いています。

ドル買い意欲は継続しているため上手くタイミングを狙って買ってみたいです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

ただし、150円を超えて急騰した場合は、高値買いリスクが高まるため買いは見送りたいです。
150円を超えてくるとどの段階で介入が入るかわからないためポジションを長く持つような戦略は避けて、1日、2日で利益が出れば確実に利益確定したいです。
下値が148円を割り込むまでは買いが入りやすく、強い動きが続きそうです。
148円を割り込んで147.4円あたりにもサポートがあり、下げ止まったら買っていきたいです。
週足で見ても9月に入ってから陽線が続いており、じわじわした円安の動きが続きそうです。
148-150円程度のレンジを意識しながら取引したいです。

<気になるクロス円>

ユーロやポンドは上値が重く、今後下がってくるリスクもありそうです。
ユーロもポンドもドルに対しては下落が続いており、欧州経済への不安から積極的にユーロやポンドを買っていく動きは限定的です。
ドル/円が大きく上昇する局面があれば上昇する動きになるかもしれませんが大きな上昇を狙うのは難しそうです。
オセアニア通貨は9月に入って上昇してきています。
上昇トレンドが続くと想定して、下げてきたら買ってみたいです。
南アフリカランドは5月の7円あたりの安値を底に少しずつ上昇していますが8円手前では上値が重い動きになっています。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では7-9月期日銀短観などがあります。
米国では9月製造業PMI(改定値)、9月ISM製造業景況指数、パウエル・FRB議長発言、8月雇用動態調査、9月ADP雇用統計、9月サービス部門・総合PMI(改定値)、8月製造業新規受注、9月ISM非製造業景況指数、8月貿易収支、前週分新規失業保険申請件数、9月雇用統計などが発表されます。
欧州ではユーロ圏とドイツで9月製造業・サービス業PMI(改定値)、ドイツで8月製造業新規受注、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、8月卸売物価指数、8月小売売上高などがあります。
ほかにはオーストラリアとニュージーランドで政策金利の発表などがあります。